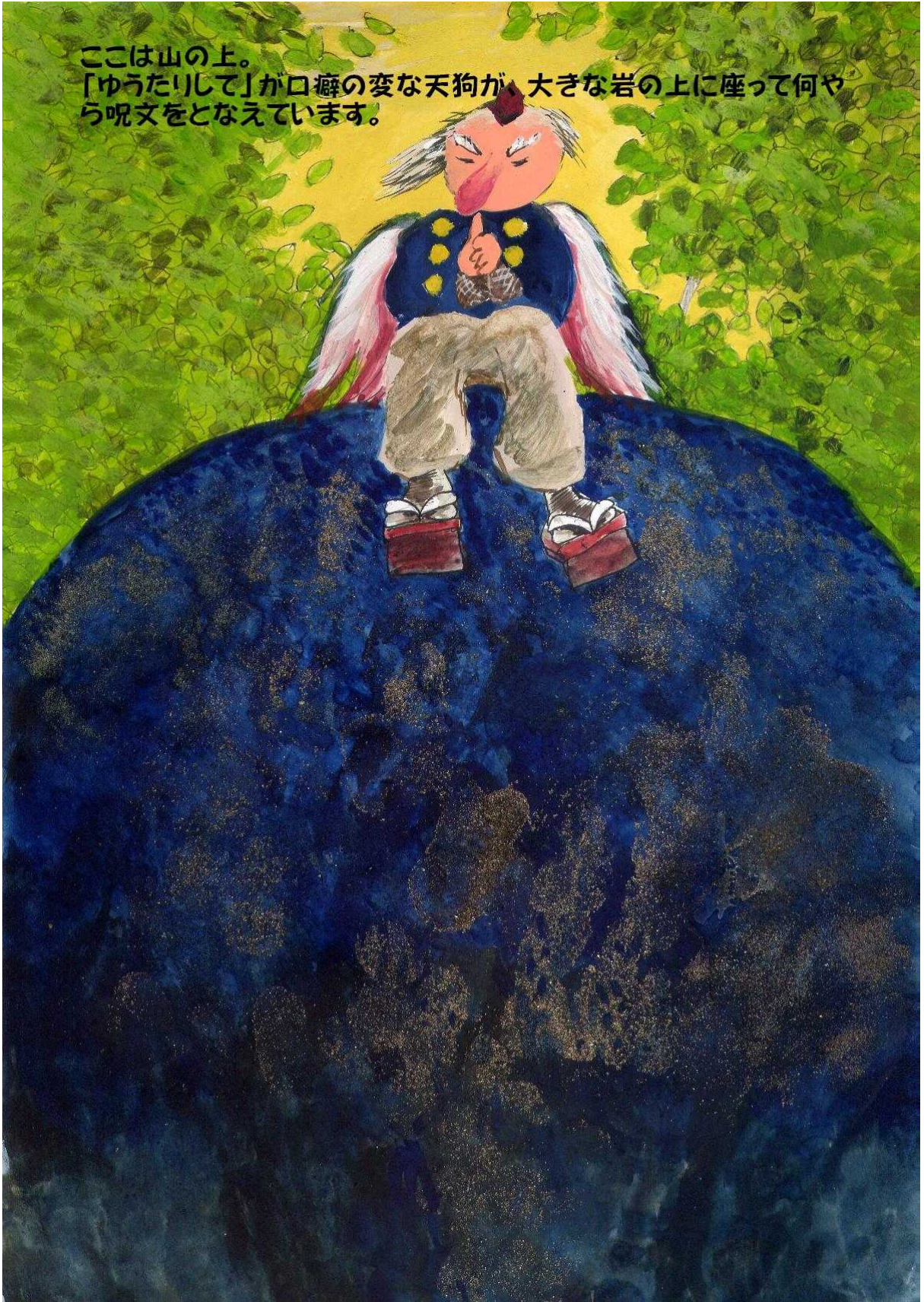




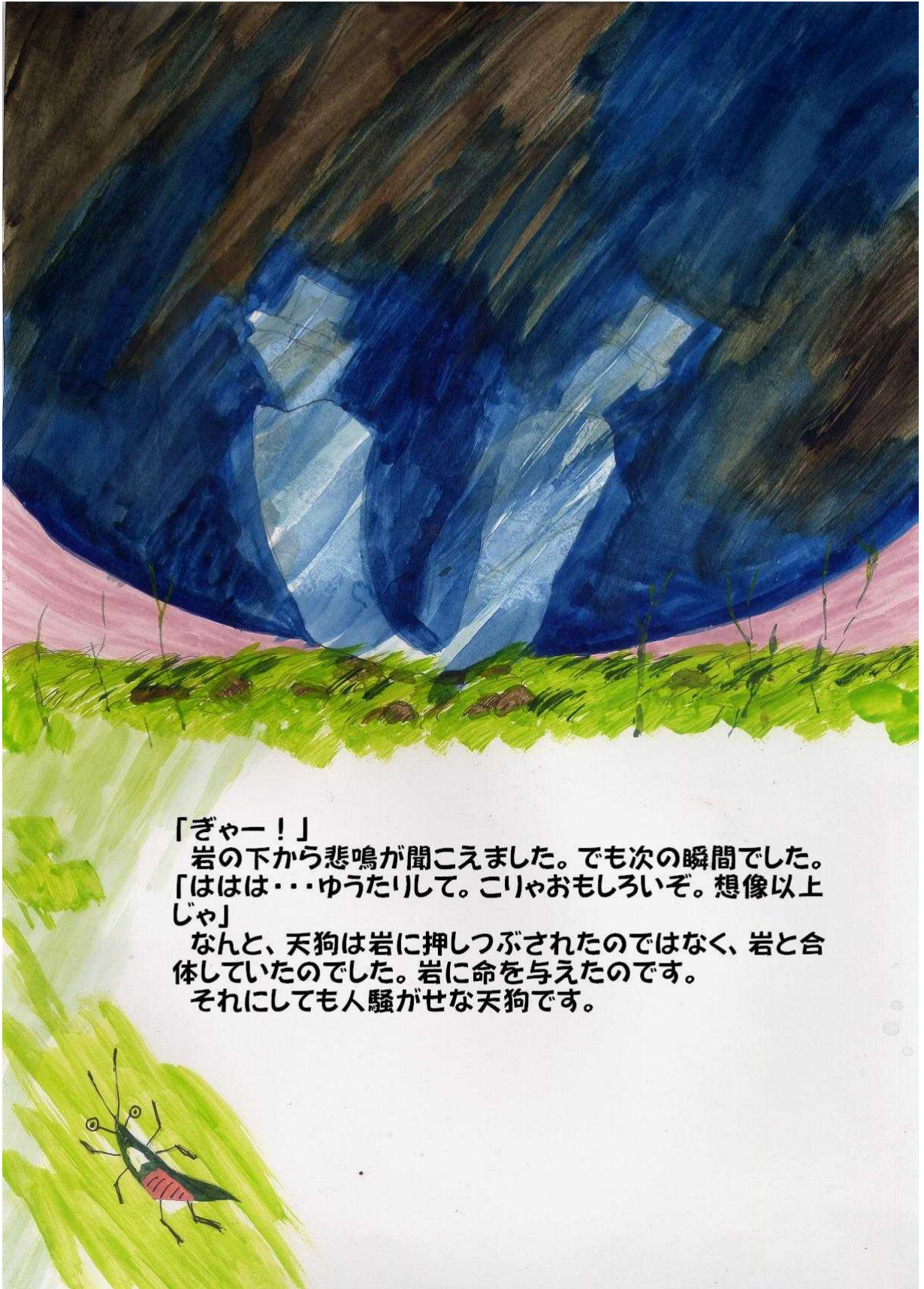
作・画 梶崎 満

ここは山の上。
「ゆうたりして」が口癖の変な天狗が、大きな岩の上に座って何やら呪文をとなえています。



あ！ なんといいことでしょう。
天狗がひと声高く「えいっ！」と叫ぶと、岩がキラキラと鋭い目を
輝かせ、ゴロリと回転を始めました。





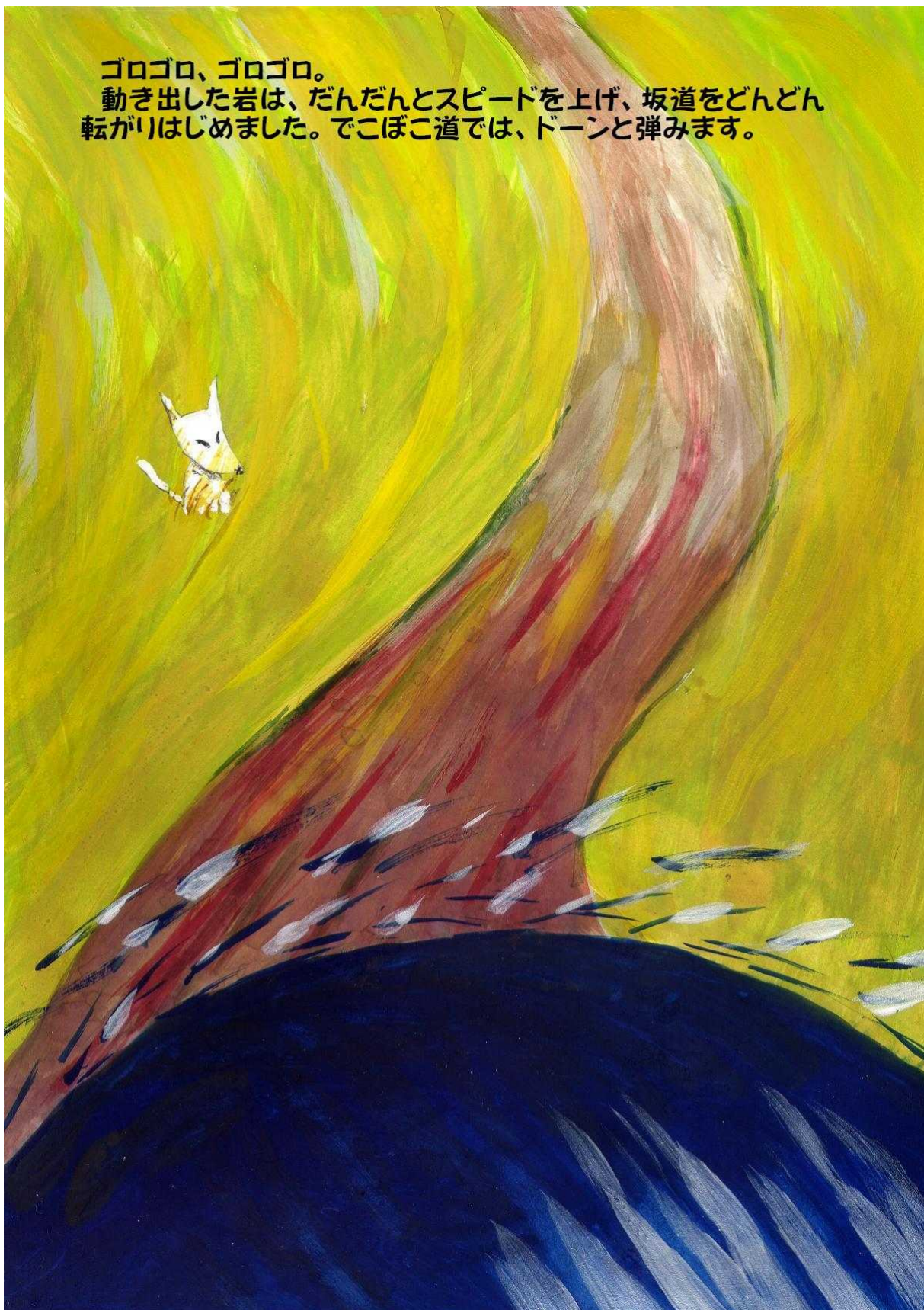
「ぎゃー！」

岩の下から悲鳴が聞こえました。でも次の瞬間でした。
「ははは・・・ゆうたりして。こりゃおもしろいぞ。想像以上
じゃ」

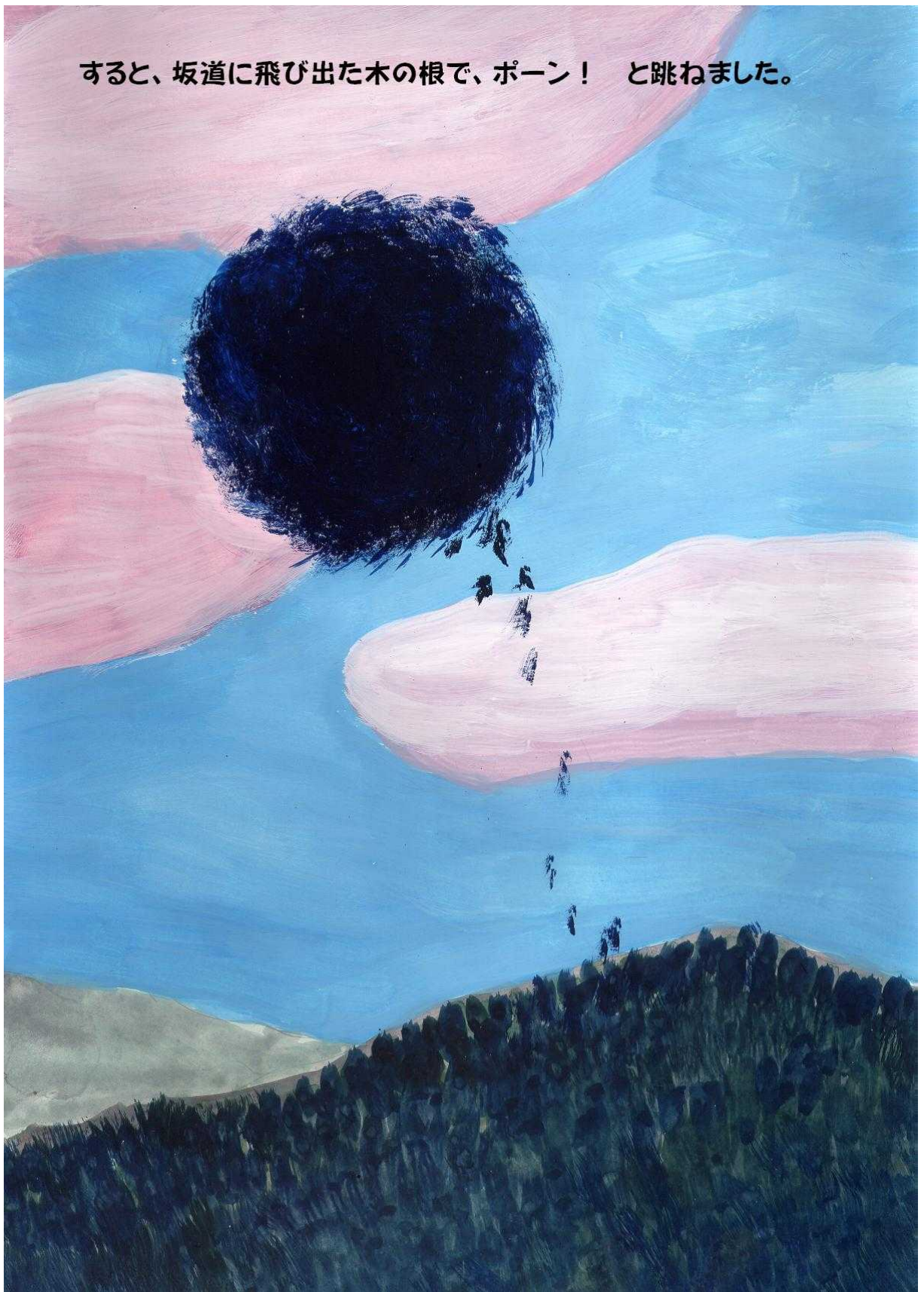
なんと、天狗は岩に押しつぶされたのではなく、岩と合
体していたのです。岩に命を与えたのです。

それにしても人騒がせな天狗です。

ゴロゴロ、ゴロゴロ。
動き出した岩は、だんだんとスピードを上げ、坂道をどんどん
転がりはじめました。でこぼこ道では、ドーンと弾みます。



すると、坂道に飛び出た木の根で、ポーン！ と跳ねました。





ドーン！
落ちてきた岩が大地をゆるがし、草むらからたくさん
の虫が飛び出しました。

その虫たちをめがけて、キジが飛んで来ました。
岩はパツクリと大きな口を開き、あっというまにキジを飲み込みました。

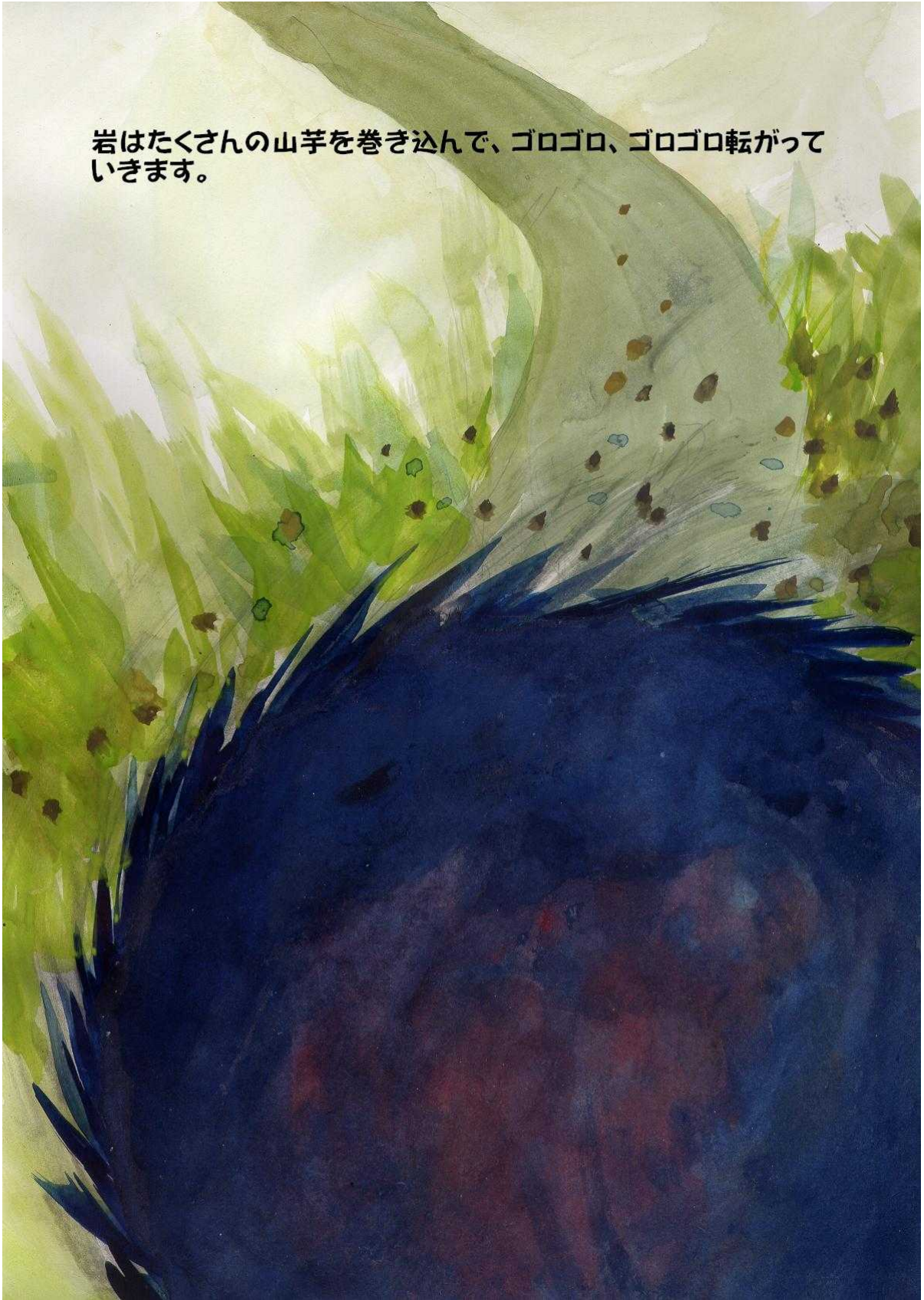
「おお、こりゃご馳走じゃ」
天狗が喜び、岩は、ゴロゴロ、ゴロゴロ。



今度は太い切り株で跳ねて、空中高く舞い上がりました。
ドン！
またまた大地がゆれ、今度は山芋が何本も飛び出しました。



岩はたくさんの山芋を巻き込んで、ゴロゴロ、ゴロゴロ転がって
いきます。



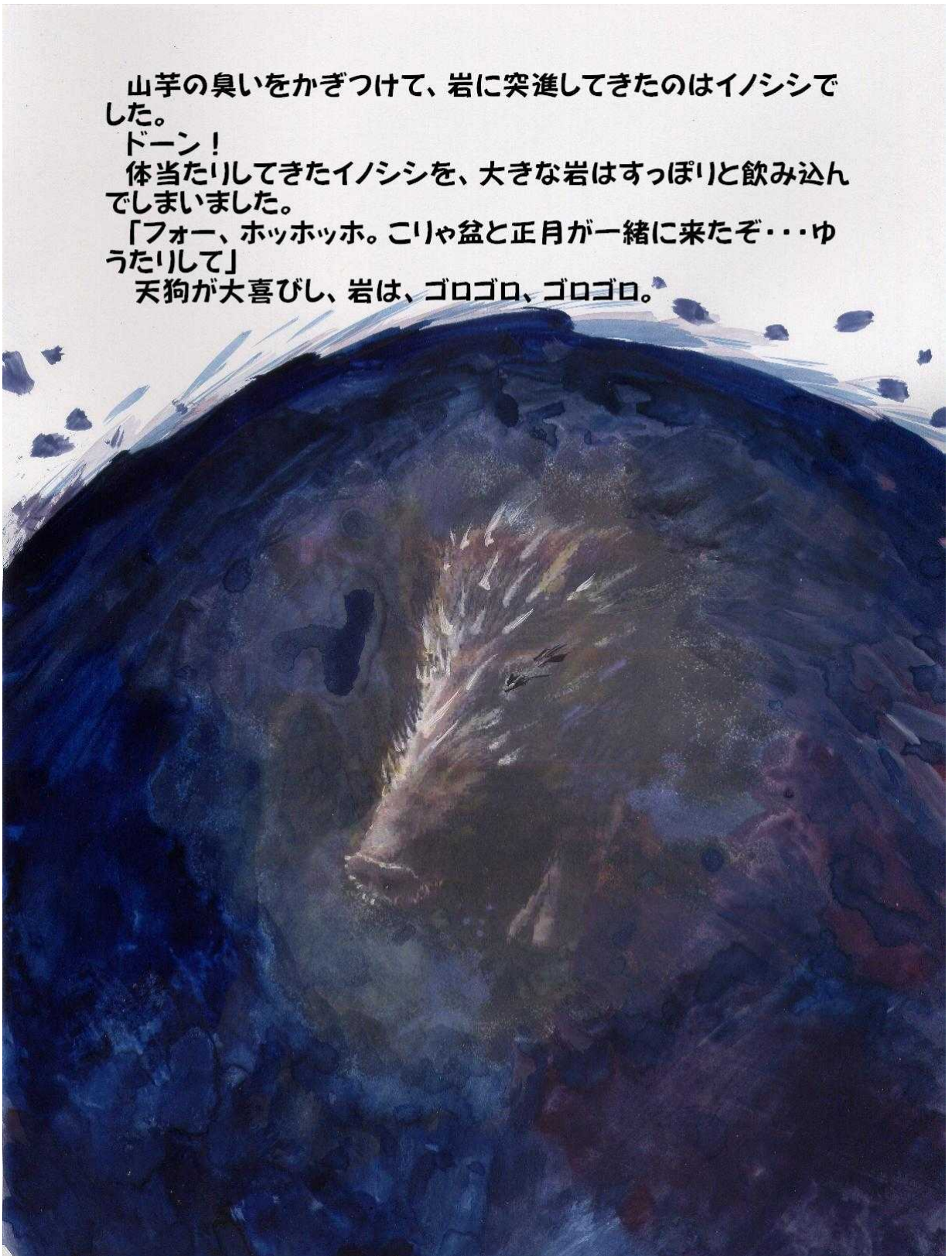
山芋の臭いをかぎつけて、岩に突進してきたのはイノシシでした。

ドーン！

体当たりしてきたイノシシを、大きな岩はすっぽりと飲み込んでしまいました。

「フォー、ホッホッホ。こりゃ盆と正月が一緒に来たぞ・・・ゆうたりにして」

天狗が大喜びし、岩は、ゴロゴロ、ゴロゴロ。



岩はスピードをゆるめず、今度は沼に突っ込みました。
ドーン！
泥しぶきが飛び散りました。
ハスの茎が岩に巻き込まれ、草むらにたくさんのレンコンがズルズルと引きずられ出てきました。



岩はどろんこになりながら、もちろんレンコンも飲み込んで、ゴ
ロゴロ、ゴロゴロ転がっていきます。
「フォー、ホッホッホ。これじゃまるで転がるスーパーマーケッ
トじゃ……ゆうたりにして」
天狗は上機嫌。
岩は、ゴロゴロ、ゴロゴロ。



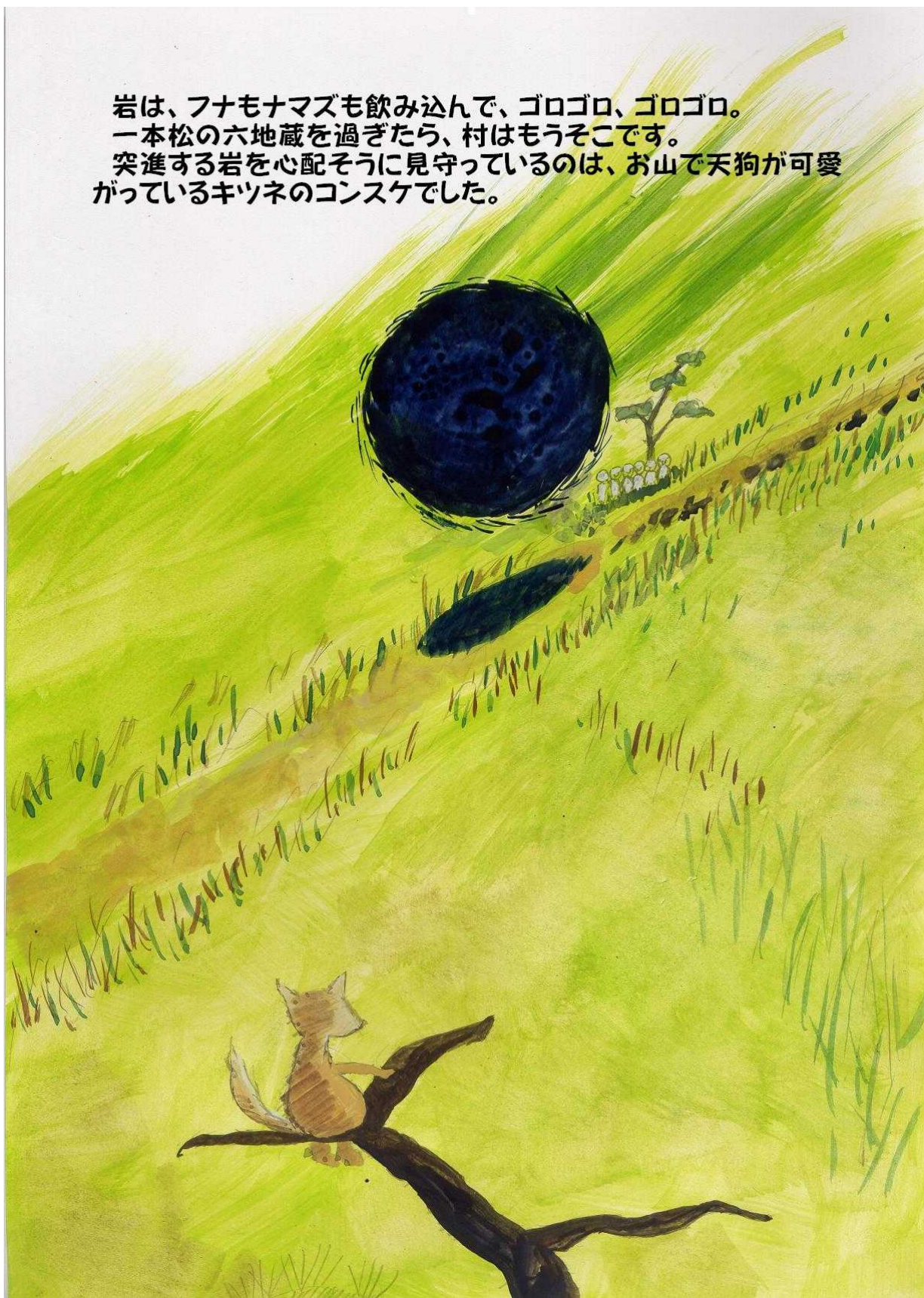
どろまみれになった岩は、やがて大きな池に近づきました。
でも、スピードは衰えません。
池の土手をジャンプ台にして、ビューンと高く舞い上がりました。




バッシャン！
池に落ちると、たくさんの水しぶきがあがりました。
メダカやエビたちが空一面に飛び散り、太陽の光を浴びて虹
のようにキラキラと輝きました。
すると、空中に舞う獲物を狙って、フナやナマズたちが飛び掛
りました。



岩は、フナもナマズも飲み込んで、ゴロゴロ、ゴロゴロ。
一本松の穴地蔵を過ぎたら、村はもうそこです。
突進する岩を心配そうに見守っているのは、お山で天狗が可愛
がっているキツネのコンスケでした。






ゴロゴロ、ゴロゴロ転がっていくと、祭囃子が流れるお社が見えてきました。

山の村はお祭りですが、今年は大きな災害で作物がとれず満足なお供え物も準備できません。

空から眺めてそのことを知った天狗は、なんとかお供え物を届けて村の人たちに喜んでもらいたかったのです。

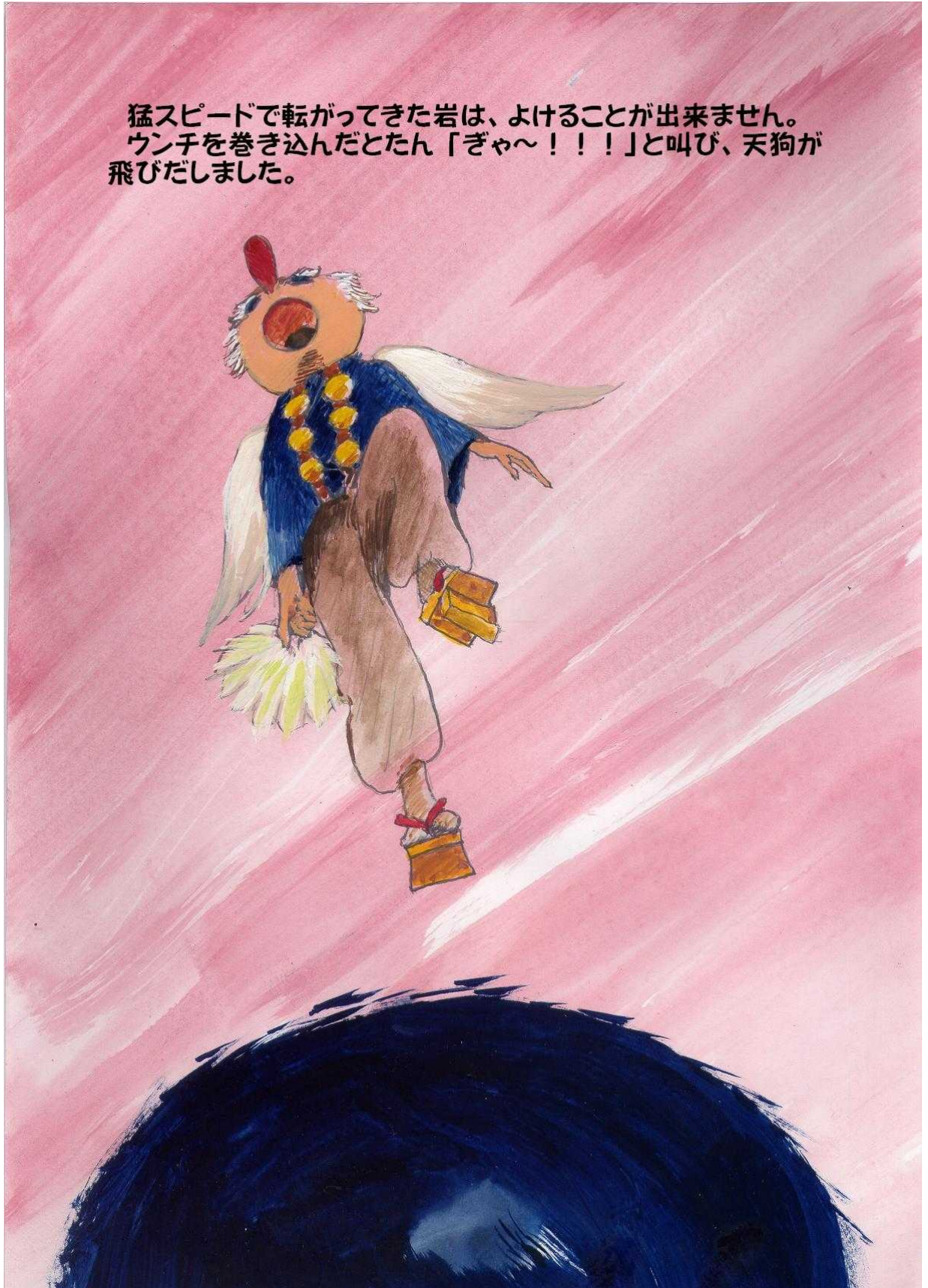
さあ、もうすぐお社に到着です。





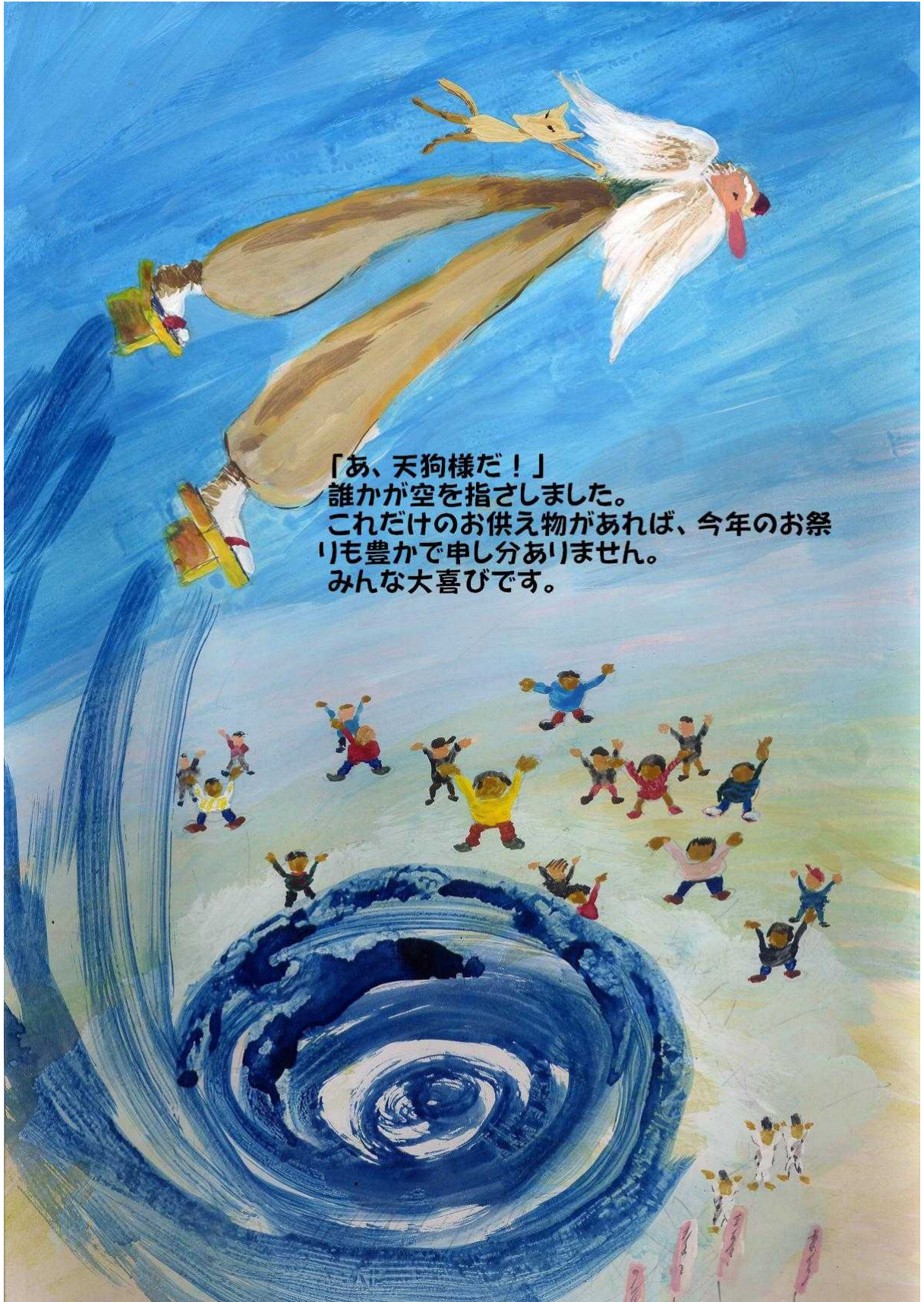
ゴロゴロ、ゴロゴロ。
お社の参道に入ったところで、岩のゆく手に大きなウンチが湯
気を立てていました。
「うわっ！ わしの大の苦手なヤツが転がってるぞ」

猛スピードで転がってきた岩は、よけることが出来ません。
ウンチを巻き込んだとたん「ぎゃ〜!!!」と叫び、天狗が
飛びだしました。



ドーン！
天狗の術がとけ、岩は激しく大地を震わせて止まりました。
キジ、山芋、イノシシ、レンコン、フナなどが次々に岩から飛び出して、あれよあれよというまに山盛りになりました。
すると、ああ不思議。
大きな岩は少しずつ色が薄くなり、たちまち消えてなくなっただけではありませんか。





「あ、天狗様だ！」
誰かが空を指さしました。
これだけのお供え物があれば、今年のお祭
りも豊かで申し分ありません。
みんな大喜びです。

大活躍したあの岩も、お山のもとの場所に戻っていました。
最後はカッコ悪かったけど、村の人たちに喜んでもらったので天狗もご機嫌です。

